

「認知症に対する誤解や偏見を無くしていきませんか。」

今年の冬は、新型コロナウイルスの話題で多くの方が、不安な日々を過ごされていたことと思います。誤った情報や、不確かな情報が、さらに不安を強くさせた原因だったのではないのでしょうか。

認知症についてはどうでしょうか。
認知症ときいてどんなことが頭に浮かびますか。

認知症にだけはなりたくない。
認知症になったら終わり。
周りに迷惑をかけてしまう。
認知症になったら何もわからなくなる。
認知症は治す方法はない。

これらは、不確かな情報やごく限られたことからの印象が強く残っていることから思い込んでいるだけではないのでしょうか。

最近では、認知症と診断された認知症本人の方が、公の場で様々な活動をされることが増えてきています。認知症になっても、すぐに何もわからなくなるわけではありません。
適切な薬を内服し、生活習慣に気をつけて、周りの環境を整えることで、住み慣れた場所で何年も笑顔で暮らしていくことが出来るのです。

認知症に対する誤解や思い込みは、医療介護関係者の中にもまだまだ強く残っているのが現実です。ご家族が認知症と診断された時、あるいは、ご自身が認知症と診断された場合でも、その先、安心して暮らしていくために、様々な情報を見聞きしておくことが大切だと思います。難しい専門書を読んだり、講演会に参加するのは、なかなかハードルが高いですが、認知症の本人が書かれた本を読んだり、認知症をテーマにした映画を見てみるのはどうでしょう。認知症について勉強しようなどと難しく考えず、純粋に楽しんでみてはいかがでしょうか。

いままで考えていたよりも、家族やご自身が認知症になった時、大変なことはあったとしても、楽しく生活していくことが出来る見通しを少しでも感じてもらえればうれしいです。

最後にいくつかお勧めの本、映画をご紹介します。

認知症の権威であった長谷川和夫先生が、2017年に自らが認知症であることを公表し、当事者となって伝えたいことを書かれた本。

- * **ボクはやっと認知症のことがわかった**
長谷川和夫(著): KADOKAWA (2019/12/27)

認知症と診断されたあとも仕事を続け、さらに認知症で悩んでいるかたや家族のために様々な活動続けている丹野さんの本。

- * **丹野智文 笑顔で生きる-認知症とともに-**
丹野智文(著): 文藝春秋 (2017/7/13)

認知症を患った父とその家族の姿を描いた山崎努主演の映画。

- * **長いお別れ**
監督: 中野量太 (2019)



山萌える

早咲きの木蓮ニュースが先日流れていました。白く大きな花が優しい香りを漂わせてくる日もあとわずか。暖冬の影響か、春の訪れがいつものより早い気がします。落の臺が顔を出すのも早いかも。「食べそびれてしまう...」と異常気象よりこちらを心配する呑気な私です。

この時期の山々の様子を見ていると思い出す事があります。

栄養士の資格取得のカリキュラムの中に、発酵・醸造を学ぶ工程があります。

その中の『酒・味噌の醸造』で日本古来の手法“麴の種付け”を実習しました。それは、『蒸した米に、樅の枝葉の灰をまぶし放置。麴の種が付くの待つ...』というものです。

灰は他の雑菌の増殖を抑え、そこで生育できる麴のみが蒸米に菌糸を伸す。やがて蒸米は緑の孢子に覆われる。この様を“萌える・萌やし”(=種から芽が伸びる事)と現し、スーパーにて28円で売られている“もやし”も同じ意味だと...

『俳句等で、春の山を、“山笑う”“山萌える”と表現します。麴同様、山々が一斉に芽吹き、緑に覆われる様を言います。芽が伸び緑に変わる...という視覚だけの事ではなく、麴が育ち味噌や酒が出来ていく喜びと、山萌えて春の到来を喜ぶ...そんな気持ちも“萌える”という言葉に含まれていませんか...?』

と生徒に問いかけた恩師。もう30年以上前の事ですが、恩師の言葉は今でも鮮明に覚えています。

今、まさに山萌える季節。新型コロナウイルス、世界的な異常気象... 不安なニュースばかりで気が滅入ります。

見慣れた場所でも五感を研ぎ澄ませてみれば、春の訪れを見つける事が出来、気持ちが明るく晴れていくと思います。

土の匂い... 枯草の中で緑映えるロゼット... きっとまだまだありますよね。

皆さんはいつつける事ができましたか？



浜松北病院 3階 『第一病棟』

こんにちは。今回は第一病棟の紹介をします。

第一病棟は3階にある整形外科・消化器科・外科を主とした一般病棟になります。

大腿骨頸部骨折や褥瘡(床ずれ)、鼠経ヘルニアや痔など手術を目的とした方の入院の他に、胃・十二指腸潰瘍・大腸憩室炎・腸閉塞など消化器科の保存的治療が必要な方や、胃カメラ・大腸カメラの検査入院、ポリプ切除後の経過観察の1泊入院などもして頂いています。

また、転倒などによる胸・腰椎圧迫骨折や脊柱管狭窄症など手術の適応外で痛みのため動けない方に対し、点滴や飲み薬を使って痛みのコントロールをしながら、自分の身体に合わせたコルセットを作り早期からリハビリが出来るように関わらせてもらっています。

その他にも、内科や循環器科・脳神経外科・歯科など混合病棟として患者さんを受け入れています。

最近では、眼科の白内障の手術(1泊2日)の患者さんも多く、こんなに覚えてびっくり、と笑顔で退院される姿にこちらも笑顔になります。

当院には回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病床がある為、治療がひと段落した後も患者さんの個々の状態に合わせたリハビリが継続できる様に連携をとり、住み慣れた我が家、または新たな住まいに安心して退院して頂けるよう、ご本人・ご家族と一緒に考えて行けたらと思っています。

病棟では各科の医師はもちろんですが、看護師・介護士・病棟クラーク・リハビリスタッフ・社会福祉士が協力し、チームとして患者さんに関わらせてもらっています。子育てをしながら働いているスタッフも多く、家庭と仕事の両立は大変ですが、やりがいもあり患者さんの笑顔・会話で癒されてもいます。

私たちの病棟は笑顔と元気が取柄です。元気すぎるが故にご迷惑を掛けてしまうかもしれません。病院の理念である「思いやりを基本とした愛情ある医療と福祉を実現する」為にみんなで協力していきたいと思えます。至らない点もありますが、北病院に入院してよかったなあ、また入院するなら北病院だなあと思って頂けるような病棟にしたいと思っていますし、患者さんやご家族との関係を築いていきたいと思っています。

第一病棟 科長 前田



ー 4月から新たに外来担当医が赴任しますー

【内科】

沖 隆	医師	月・木・金
田中 悠子	医師	金

【消化器科】

古橋 暁	医師	金
杉浦 喜一	医師	水

【整形外科】

杉浦 香織	医師	金
-------	----	---

【泌尿器科】

麦谷 荘一	医師	火
竹村 綾奈	医師	土(交代制)
渡邊 信哉	医師	土(交代制)

詳細は外来担当医表(別紙)をご覧ください



◇遠州鉄道

積志駅下車
徒歩15分

◇遠鉄バス

JR浜松駅
10番バスターミナル
77 労災・東海染工
イオン市野行き
→浜松北病院下車

〒431-3113 静岡県浜松市東区大瀬町1568番地



TEL (053)435-1111(代表)
FAX (053)433-2700(代表)
TEL (053)435-1522(地域医療支援課)
FAX (0120)435-3511(地域医療支援課)
E-MAIL seisyukai@hamamatsu-kb.or.jp
ホームページ http://www.hamamatsu-kb.or.jp



翔き

はばた

2020
春号
No. 57



全体防災訓練(12月実施)

災害対策として、年2回実施している防災訓練。医療機関として、有事への備えも大切な仕事です。



医療法人社団 盛翔会 浜松北病院

大瀬介護保険センター きたぞうウォーク

訪問看護ステーション大瀬 訪問リハビリテーション大瀬
おせデイサービスセンター おおせ第二デイサービスセンター

基本理念
思いやりを基本とした愛情ある医療と福祉を実現する。